

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 阿部 昌宏
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

2015 年 (平成 27 年) 7 月 1 日 水曜日
(毎月 1 日発行) 1 部 50 円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

ニューヨーク別院慈雲山天台寺

本堂落慶 10 周年記念慶讃法要を厳修



天台宗ニューヨーク別院慈雲山天台寺(眞・ポール・ネエモン住職)では、本堂落慶から10周年を迎える。このため天台宗海外伝道事業団(山田俊和理事長)は木ノ下寂俊宗務総長を団長に記念参拝団を派遣し、去る6月13日には派遣団員の出仕、随喜による本堂落慶10周年記念慶讃法要と得度授戒会が厳修された。

本堂落慶10周年記念慶讃法要は木ノ下宗務総長を大導師、ネエモン住職を副導師に執り行われた。(写真)天台宗仏教青年連盟(光栄純貴代表)会員やニューヨーク別院サンガメンバーが出仕し、前半を日本側、後半をアメリカ

側が行う形で進められた。本堂内に設けられた随喜席は100人を越える信徒で満席となり、ネエモン住職が読経を始めると堂内には英語の般若心経が響き渡った。法要後の式典で、木ノ下宗務総長は「ネエモンご住職は

天台宗で初めてアメリカ本土での開教をスタートされ、信徒の教化に邁進、その輪を着実に広げてこられました。ニューヨーク別院が20周年、50周年、100周年と発展を続けることで、全米の天台仏教

の一大拠点として見事な歩みを重ねられますことを祈念いたします」と祝辞を贈った。ネエモン住職は「寛大で思いやりのある天台宗、地元や宗教コミュニティ、熱心なサンガと自然の恩恵を受けて、ここまで成長してまいりました。次の新たな一章の着手に当たり今後とも皆様のご支援とご声援を賜りますようお願い申し上げます」と謝辞を述べた。

サンガメンバー二名が得度

10周年慶讃法要に先立って得度授戒会が小堀光實延暦寺執行を戒師に行われ、2名のサンガメンバーが受戒を受けた。両名ともに10年以上に渡りニューヨーク別院での活動に携わっている。

誌を発行し情報提供を行っている。広真・カール・パウアー師(写真左)は2013年まで3年間別院で助手として生活していた。現在も別院での業務の助手をつとめており、機関誌発行のサポートを行っている。

眞岳・ジェニファー・ヘンダーソン師(写真右)はサンガを設立しリーダーとして毎週活動を行っており、サンガメンバー用のオンライン機関

二人は謝辞で天台宗僧侶の一員になったことへの感謝と感動、今後の抱負を述べた。



極微

今、アメリカで静かに広まりつつある行動があると聞く。それは「Random Act of Kindness (ランダム・アク

トオブカインドネス)」と呼ばれるものだ。そのまま訳すると、無作為とか、勝手気ままなとか、行き当たりばつりの親切な行為ということになる。もう少し分かりやすくいうと、見ず知らずの人に、時と場所も選ばず、また、どんな状況下であろうとも、とにかく親切な行為をすることのようだ▼ウエブサイトで見た例だが、ファーストフード店で、欲しいものの値段が手持ちのお金より高くて、がっかりしている少年に、店員が自分の金を足してその食べ物を買ってやったところ、後で少年の両親から感謝と共に高額の御礼を貰ったという話があった▼見返りを求めない親切が、思わぬ利を得た例だが、下心なく相手を思いやる行為だからこそ、思わぬ見返りが訪れるのだ。ポイントとは利他の精神。個人主義が根底にあり、競争社会の典型のようなアメリカで、このような行動が広まりつつあるというのは、意外な感もある。いや、そういう社会だからこそ、ギスギスした社会で、このムーブメントが次第に支持を集めて来ているのかも知れない▼この国でも、どの社会でも、人間である以上、この「己を忘れて他を利する」の精神は、素直に肯定される価値観であることが良く分かる。